



ひかいのこ

2021年度 号外

日本キリスト教団
名古屋新生教会 教会学校だより
名古屋市西区天神山3-7 TEL.052-531-1820
HP : <http://nagoya-shinsei.church/>

教会学校礼拝・こどもれいはい 引き続きお休みのお知らせ

全国的な新型コロナウイルス感染拡大の情勢が続き、愛知県でも「緊急事態宣言」が延長されました。これを受けて、引き続き9月26日（日）までの教会学校礼拝・こどもれいはい・分級を休止します（大人の礼拝も同様）。休止期間は状況により延長することもあります。その際にはまたお手紙でご連絡します。「緊急事態宣言」の再延長がなければ、10月3日（日）より教会での礼拝を再開します。

新型コロナ情勢の一日も早い収束と、みなさまの体と心の健康をお祈りしています。そして、また教会で会えることを楽しみにしています。

教会学校礼拝・こどもれいはい は休止しますが、今回も礼拝予定の聖書箇所についての物語を載せます。ぜひお読みください。

9月19日（日） ◆週題：ルツの信仰 ◆聖書：ルツ記 1章



悲しいできごと イスラエル人のナオミは、だんなさんと二人の息子と一緒にベツレヘムで暮らしていました。ところが、悪い天候が続いて、畑の作物がまったく取れなくなってしまいました。食べ物もなくなって困ったナオミとだんなさんは、息子たちを連れて、モアブという国に引越すことにしました。

モアブでは、本当の神さまを信じる人はいませんでした。それでも、ナオミの家族はイスラエルの神さまを信じ続けて、周りのモアブの人たちとも仲良くして暮らしました。ところがある時、だんなさんが亡くなってしまいました。そして、モアブの女の人と結婚した二人の息子も、続いて亡くなってしまったのです。家族は、ナオミと二人のお嫁さんだけになってしまいました。「これからどうしましょう」とナオミは悲しみました。

ルツの決心 そんな時、ナオミの故郷のベツレヘムでは、畑の作物が取れるようになったという話を聞きました。ナオミは、お嫁さんのルツとオルパに言いました。「ルツ、オルパ、私は故郷のベツレヘムに帰ることにしました」。ルツとオルパは「ナオミお母さん、私たちも一緒に行きます」と言いました。でも、ナオミは首を振り、「ルツ、オルパ、ベツレヘムはあなたたちにとっては外国よ。きつとつらい思いをするに違いないから、あなたたちはモアブに残りなさい」と言いました。オルパはとても迷いましたが、ナオミの言うとおりに、モアブに残ることにしました。けれどもルツは、ナオミにすがりつきました。「ナオミお母さん、私はお母さんとベツレヘムへ行って、一緒に住みます。お母さんが信じている神さまを私も信じているのです」。本当の神さまを知らなかったモアブ人のルツで



すが、ナオミと暮らして、神さまの話や祈りを聞いたり、お祈りしたりしているうちに、神さまを信じるようになっていたのです。モアブには、本当の神さまを信じる人はいません。ルツは、ナオミと一緒に、本当の神さまに従いたいと、はっきりと言ったのです。ルツの決心が固いことがわかったナオミは、ルツを連れていくことに決めました。



新しい生活 二人がベツレヘムに着くと、ナオミの昔の友だちが集まってきました。「まあ、ナオミ！モアブから帰ってきたの」「だんなさんも息子さんたちも亡くなられて、本当にたいへんだったわね」。懐かしい顔のお友だちに次々と声をかけられて、ナオミはうれしくて目に涙を浮かべました。ナオミもルツも、家族を亡くした悲しみを忘れることはできませんでしたが、神さまと一緒にいて慰めてくださっていることがとてもよくわかりました。こうしてナオミとルツのベツレヘムでの新しい生活が始まりました。



9月26日（日） ◆週題：祝福を受けたルツ ◆聖書：ルツ記 2~4章



麦を拾うルツ ルツが向かった大きな畑では、たくさんの人が働いていました。畑の麦は美しく実り、ちょうど収穫の季節でした。ルツは勇気を出して、働いている人たちに声をかけました。「こんにちには。モアブから来たルツといいます。お母さんに食べさせてあげたいので、この畑で働かせてもらえますか？」畑で働いていた人たちは汗を拭きながら、「この畑のご主人はボアズ様といって、親切な方だよ。ここで麦を拾うといいよ」と教えてくれました。「ありがとうございます」ルツはそう言って、さっそく畑に

落ちていた麦の穂を拾い集めました。主人のボアズが、畑の様子を見に来ました。「みんな、よく働いてくれてありがとう」。ボアズはルツに気づいて、召使いに尋ねました。「おや、あそこにいる女性は見慣れない人だね」。召使いの一人が「ボアズ様、あの人はナオミさんと一緒にモアブの国からやってきたルツさんです。朝早くから一生懸命、落ちた麦を集めていますよ」と答えました。それを聞いたボアズは、ルツに優しく声をかけました。「ルツさん、あなたがお母さんのお世話をするためにモアブから来たと聞きました。神さまがあなたを祝福くださるように祈っています。明日からもずっと、私の畑で働くといいですよ」。ボアズは、ナオミとルツが困らないようにと、たくさんの麦をくれました。



「お母さん、ただいま」。ルツがたくさんの麦を持って帰ってきたので、ナオミはびっくりして「まあ、ルツ、こんなにたくさん麦をどこで集めてきたの？」と聞きました。ルツは「ボアズさんの畑です。とても親切にしてくださいました」と嬉しそうに答えました。「ルツ、本当によかったね。ボアズさんといえば、私たちの親戚にあたる人なんだよ！」ナオミは、神さまがルツをボアズの畑に導いてくださったのだと思いました。



ルツの結婚 それから毎日、ルツは朝早くからボアズの畑に通って一生懸命働きました。「お母さん、今日もボアズさんの畑で、こんなにたくさん麦をいただきました」。ルツもナオミも食べ物に困ることはありませんでした。

ある日、ナオミはルツにこう言いました。「ルツ、もし神さまが導いてくださるなら、ボアズさんと結婚したらいいわ。ボアズさんに気持ちを聞いてごらんなさい」。ルツは驚きましたが、勇気を出して、ナオミに言われたとおりにボアズのところへ行って、気持ちを打ち明けました。そして、二人は本当に結婚することになりました。ルツもボアズも、うれしい気持ちでいっぱいでした。ナオミも大喜びです。やがて、ルツにはかわいい男の子の赤ちゃんが与えられました。



モアブを出発した時は、家族を失った悲しみの中にいたナオミとルツですが、一緒にいてくださる神さまに守られて、たくさんの大きな祝福をいただくことができたのでした。